

地域の往診・訪問診療医を知ろう！

～国部医院～ 研修会報告

シリーズ 第1回

高岡地域

この研修会は、主に介護職と医師の顔の見える関係づくりができ、介護職が気兼ねなく、必要な時に、適切な連携(情報共有や相談)ができるようになることを目的として、シリーズで開催しています。今回は国部医院の國部伸也先生に、自院の特徴や多職種との連携についてお話しいただき、多職種35名の方々にご参加いただきました。

<開催日時> 2024年1月25日(木) 14時～15時

くにべ のぶや
國部 伸也 氏

国部医院 院長

姫路市医師会 副会長

姫路市在宅医療・介護連携支援センター センター長



主な
内容

【国部医院の在宅医療】

- 1.国部医院の概要
- 2.訪問診療・往診の実績と内容
- 3.訪問診療の依頼方法と確認事項等
- 4.他職種との連携と私の思い
- 5.緊急時や看取り時等の流れ
- 6.人生会議について

メッセージ

医師より患者情報を多く持っているみなさんと、日頃からの情報交換が重要と考えています。

参加者の皆さまからの声をご紹介します(アンケートより一部抜粋)

- 医師がどのように考え、往診・訪問診療をおこなっているのかリアルな声でよくわかった。
- 今回のような講義を受けたことがなく、話が聞けて良かった。ケアマネとして多職種との連携が本当に大切であることがわかった。ケアマネの役割を改めて考えるきっかけになった。
- 医師間で連携があることや、皮膚科や耳鼻科などへの紹介をしていただけのことを知った。
- 医師との連携は敷居が高いと思っていた。先生が身近に感じた。
- 廃用症候群モデル入退院時連携ルールや#7119がスタートしたことなど知らなかったので勉強になった。
- 心肺停止やDNARの実際をお聞きできた。
- 地域の訪問診療をされている先生のお考えを聞き、今後連携を高めていきたいと思った。
- 普段のアセスメントにALP・ACPを付け加えることを利用者様にも意識付けしていきたい。
- 利用者の情報など先生にお伝えすることでより良い支援が行えると思った。積極的に医療連携を行っていきたい。